

# 国分寺市新庁舎建設基本計画（概要版）

## 序章 新庁舎建設候補地の決定について

新庁舎建設については、平成29年度より本格的な検討に着手し、平成31年3月に『国分寺市新庁舎建設基本構想』を策定しました。この基本構想は、分散している行政の機能を集約して良質な市民サービスを提供するとともに、災害時の拠点としても十分な機能を備え、市民の安全・安心の礎とする目指すべき新庁舎のあり方を示すとともに、新庁舎の建設候補地を「現庁舎用地」と「泉町都有地」の2か所に絞りました。

平成31（令和元）年度に入ってから、新庁舎の建設候補地を1か所に絞るため、さらなる市民参加を実施し、市議会令和元年第3回定例会において、市長より新庁舎建設候補地に関する所信として、新庁舎の建設候補地は「泉町都有地」が望ましい旨の表明を行いました。

所信の表明後、市長自らが、泉町都有地を望ましいとした理由を説明する市民説明会も開催しました。市民と市長が直接意見交換し、この結果も踏まえた上で、市議会令和元年第4回定例会に「国分寺市役所位置変更に関する条例」の制定案を上程し、議長を含む出席議員の3分の2以上の者の同意が得られ、新庁舎は「泉町都有地」を建設地として推進していくことが決定されました。

今後は、本基本計画に基づき新庁舎の早期竣工を目指し、着実に進めていきます。

## 第1章 基本計画の目的

本基本計画は、『国分寺市新庁舎建設基本構想（以下「基本構想」という。）』を受け、新庁舎建設における基本的な事項をまとめたものであり、引き続き進める基本設計、実施設計を行う際の指針となります。



## 第2章 新庁舎の基本理念及び基本方針

基本構想において、以下のとおり「基本理念」と「基本方針」を設定しています。

基本理念	基本方針	
	庁舎像	計画姿勢
暮らしと命の 支えになる	“頼りがいのある”	災害対策拠点として、災害時の事業継続計画（BCP）に配慮し、どんなときでも対応できる万全の性能と機能を確保。
	“無駄のない”	長期の使用を踏まえ、建設費、運用費などを見定めながら、無駄のない性能や仕様を確保。
市政が 身近になる	“利用しやすい”	市民、職員などが、快適な中にも利用しやすく使いやすい、ワンストップサービス等を視野に入れたサービスと空間を確保。
	“開かれた”	多くの市民が、市政に対し関心の持てる雰囲気づくりに配慮し、触れられる場、交流の図れる場を確保。
国分寺の 心を育む	“愛着の持てる”	国分寺らしいデザインに配慮し、市民・職員の思いが盛り込まれた、皆が誇れる庁舎を確保。
	“調和の取れた”	自然環境や周辺市街地と調和し、エコロジーを踏まえた機能を確保。

## 第3章 新庁舎の想定規模

- 職員数816人のうち新庁舎に配置予定の職員数785人（合計人数は市長、副市長、教育長を除いた人数。公民館、図書館のほか、子ども家庭支援センター等、庁舎外で運営業務を行う部署を含みません。）、議員数22人を指標に規模（面積）の設定を行います。
- 基本計画では、適正な財政支出のために、基本構想で設定した面積下限値19,600㎡より更なる面積縮減を目指します。ただし、窓口に関連するスペースや通路は、ユニバーサルデザインの観点から、わかりやすさや安全性へ配慮し、必要な規模の確保に努めるとともに、市民検討会等の意見も参考に、市民協働や多目的に活用できる市民利用スペースの充実を図ります。
- 「執務レイアウト」、「文書・物品」、「会議室」について具体的な面積縮減手法を示しています。また、これらの方策に加え、その他の面積縮減の可能性も検討した上で、更なる削減を目指します。

## 第4章 新庁舎に備えるべき機能

- 基本構想で設定した基本理念及び基本方針をより具現化し、「市民・利用者の視点」、「建物として備えるべき機能」及び「人々の想いや考え方」に配慮した新庁舎建設の実現を目指します。
- 基本方針での「求める庁舎像」より、新庁舎に備えるべき具体的な機能を設定しました。
- 新庁舎建設においては、SDGsの達成に向けた取組を進めるとともに、新型コロナウイルス感染症等に対する市民の手続や執務室環境への配慮を検討し、対策を講じます。



### 1. 防災機能

- 災害対策拠点として、万全の性能と機能を確保
- 大地震が発生しても業務継続が可能な「免震構造」を採用します。
- 充実した機能を発揮する災害対策本部となるエリアを市長室エリアに近接した配置とします。
- 非常用発電機の整備及び電力の多重化による電力の確保など、災害に備えた非常用設備を設置し、業務継続に必要な基幹設備機能を相当時間継続可能とします。



免震装置の例

### 2. 市民サービス機能

- 誰もが快適で利用しやすい庁舎
  - わかりやすく開放的なフロア構成を目指し、誰もがわかりやすい案内表示を設置するとともに、必要に応じてフロアマネージャの配置を検討します。
  - 市民の利便性向上のため、利用者の多い窓口を集約して、ワンストップサービスの導入や、予約図書受渡し・返却等、充実した窓口サービスを提供します。
  - 待ち時間を快適に過ごせるよう、ゆとりのある待合席の配置を検討します。また、子育て世代に配慮し、キッズコーナーの設置などの検討も行います。
  - プライバシーに配慮した仕切りのある窓口カウンター、仕切りに囲われた相談ブースなどを設置します。
- 市民が訪れやすい開かれた庁舎
  - 市民の交流を促す多目的スペースや、多様な情報が発信できる地域情報コーナーを配置します。
- ユニバーサルデザインを取り入れた、誰にもやさしい庁舎
  - ゆとりのある通路幅の確保など、安全でわかりやすい庁舎とします。東京都福祉のまちづくり条例で望ましいとされる整備基準も積極的に導入します。
  - 誰もがわかりやすい案内表示とします。
  - あらゆる人にとって使いやすいただれでもトイレなどを設置します。



見通しが良く分かりやすい窓口の例

地域情報コーナーの例



ゆとりのある待合席の例

仕切りに囲われた相談ブースの例

### 3. 執務機能

- 将来の変化に柔軟に対応できる効率的・機能的な執務環境
  - ユニバーサルレイアウト（右図参照）を導入し、効率的な執務空間を整備します。
  - 少人数の打合せスペースや休憩・食事スペースを設置します。

	従来型（組織島型レイアウト）	ユニバーサルレイアウト
模式図		
レイアウト	組織体制に合わせた配置	画一的なデスク配置に組織を合わせる
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 部署単位での情報管理が図りやすい</li> <li>× 活用を図りたいスペースが散在する</li> <li>× 組織改編のためにレイアウト変更が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 見通し良く開かれた庁舎を体現する</li> <li>○ スペース効率・運用費用を最小化</li> <li>○ 組織改編の際には「人」「書類」のみ移動</li> </ul>

レイアウト方式の比較

#### 4. 環境対応機能

(1) 環境負荷低減に配慮した庁舎

- ・CASBEE の評価指標を検討します。また、ZEB の考え方を考慮します。
- ・緑化環境の整備、日射対策、自然エネルギーの利用、高効率の設備機器使用、環境にやさしい建築材料の使用などを検討します。

#### 5. 建物機能

(1) 費用対効果が高く、永く使いやすい庁舎

- ・将来の市民ニーズや庁内の組織改編に柔軟に対応できるシンプルな建物形状、空間と設備を設定します。
- ・長期的な建物の保守管理の視点、ランニングコスト低減など、ライフサイクルコストを考慮した費用対効果の高い施設とします。
- ・目標耐用年数に対応し、維持管理や修繕・更新がしやすく長寿命化に配慮した施設とします。

(2) 良好な景観形成に寄与する庁舎

- ・豊かな周辺環境と調和し、良好な景観形成に寄与する庁舎とします。

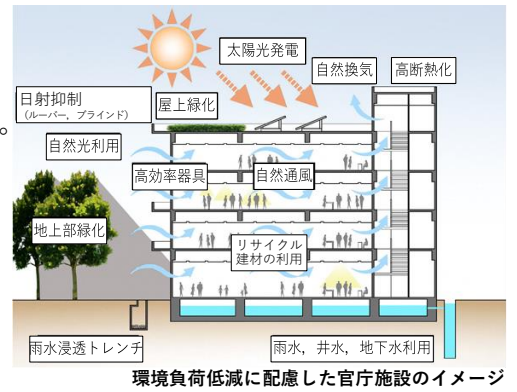
#### 6. 議会機能

(1) 市民に親しまれる、開かれた議会

- ・ユニバーサルデザインを取り入れた、誰もが傍聴等しやすい環境を整備します。
- ・議会機能や議会活動の実態を踏まえて、多目的な利用も考慮します。

(2) 機能的・効率的な設備を備えた議会

- ・円滑な議会運営ができるよう、ICTを活用し、セキュリティにも配慮した環境等、必要な機能を検討します。



環境負荷低減に配慮した官庁施設のイメージ

### 第5章 建設地の概要と新庁舎建設の基本事項

#### 建設地：国分寺市泉町二丁目 102-9 (地番)

(1) 配置の考え方

- ・最寄りの JR 西国分寺駅からのアクセスに配慮し、敷地西側からの動線をメインのアプローチとします。車両の出入りも西側の市道からとすることで、周辺地域での車両の交錯に配慮します。

(2) 平面形状の考え方

- ・敷地の法的な制限を考慮し、コンパクトでシンプルな平面形状を基本とします。この形状は免震構造においてもコスト的に有効な形状となります。
- ・市民が訪れる窓口は、必要な窓口カウンター長さが直線で確保しやすく、待合・通路に対して両側に窓口が配置される「窓口中央配置」形式とします。

(3) 階層構成の基本的な考え方

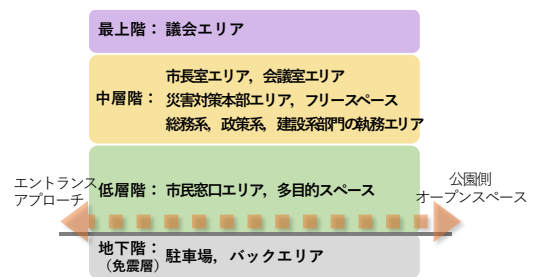
- ・低層階には市民の利用頻度が高い市民窓口エリア（税務系、市民生活系、教育系、福祉保健系の部門）や多目的スペースを配置し、中層階には市長室エリアと関連する部署を配置し、災害発生時に迅速な対応がとれるようにします。最上階には独立性に配慮し議会施設を配置します。

(4) 市民窓口エリアの近接性の考え方

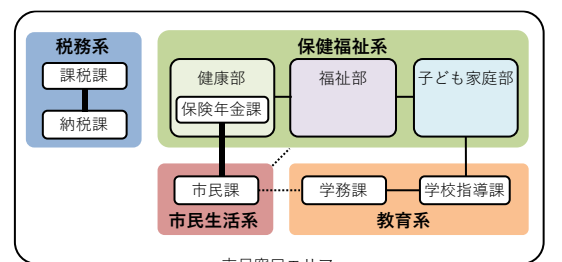
- ・低層階に配置する市民窓口エリアは近接性を考慮し、教育系・保健福祉系も含め部署間の連携がしやすい配置を検討し、市民の利便性の高いワンストップサービスを実現します。



配置イメージ



階層構成のイメージ



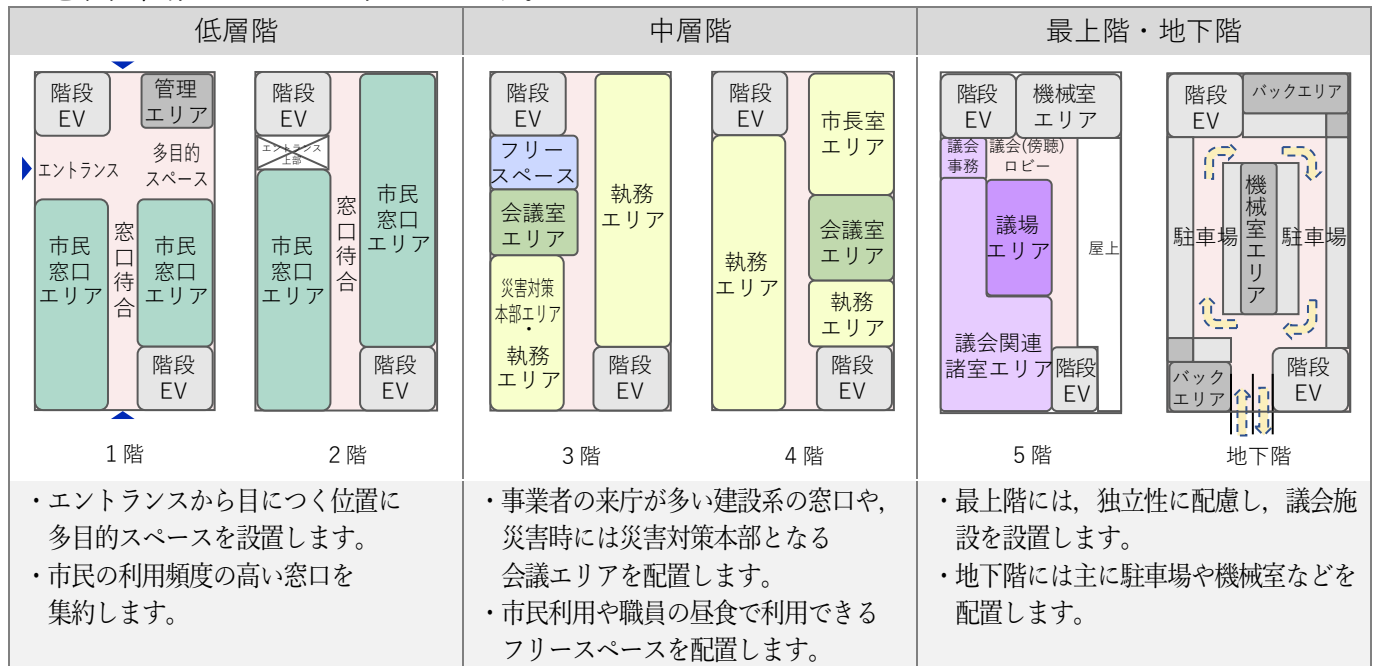
凡例

- ：隣接配置
- — —：近接配置
- .....：関連配置
- ※同一階かつ隣接して配置すべき部署
- ※同一階に配置すべき部署
- ※低層階に配置すべき部署

市民窓口エリア近接性の概念

(5) 各層ゾーニングの考え方

・庁舎として標準的な階高を設定した場合の例として、本敷地の高さ制限の中で計画できる地上5階建てと地下駐車場のイメージで示しています。



なお、建物構造の考え方として、災害対策本部機能と市民の安全を守る行政業務の持続性確保に対する信頼性の観点から、免震構造を採用します。

## 第6章 新庁舎の事業計画

### 1. 発注方式選定の考え方

施工者の技術提案によるコスト縮減、資材の先行発注等による工期短縮が最も期待でき、早期からのコストやスケジュール管理に優位性がある、設計・施工一括発注方式により進めます。

### 2. 事業スケジュールの概要

現在の想定では、令和3年4月より設計を開始し、令和6年10月末の竣工を予定しています。

年度	令和元年度			令和2年度				令和3年度				令和4年度				令和5年度				令和6年度				令和7年度								
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12					
主要事項				● 国分寺市役所新位置変更に関する条例制定				● 建設地取得																				● 新庁舎供用開始				
基本計画	基本計画																															
設計施工者選定				設計施工者選定																												
設計・工事				準備				公募・選定				基本設計・実施設計				新庁舎建設工事																
付帯設備工事																									付帯設備工事							

### 3. 想定事業費

新庁舎の事業費は、今後作成する要求水準書を踏まえ最終的な事業費を設定することとなります。「基本構想」では、想定事業費を138.8億円として設定しております。

調査費：2.0億円	設計・監理費：2.6億円	移転費：0.5億円
新庁舎建設費（外構込）：93.3億円	用地取得費：40.4億円	<b>合計：138.8億円</b>